

ばんえい支援と地域活性を目指して
ばん馬グッズを販売



公式SHOP

帯広競馬場 **「LUCKYハウス」**
 ネットショップ **「ばんばショップ」**

ばんえいファンから観光客の方々まで、多くの方々に、ばんえい競馬とばん馬に親んでいただくために、オリジナルグッズを中心にばん馬グッズを販売。福祉施設や刑務所などとも連携し、ばん馬の蹄鉄や、ばん馬がデザインされた手ぬぐい、Tシャツ、グラスなどなど、150点以上の商品を取りそろえ、ばんえいPRと地域活性化に寄与しています。

※これら商品の売り上げは、経費を除く全てが馬文化支援にあてられます。

《商品例》



SOMES製
馬チャーム



アートTシャツ



開運蹄鉄

-----キリトリ線-----

申込日 年 月 日

とかち馬文化を支える会 入会申込書			
会員区分	<input type="radio"/> 個人会員	<input type="radio"/> 賛助会員	<input type="radio"/> 登録店
備考	<input type="radio"/> 現金	<input type="radio"/> 郵便振込	<input type="radio"/> 銀行振込
氏名			
住所	〒		
TEL	FAX		
E-mail			

とかち **馬文化を支える会**

特定非営利活動法人(NPO法人)

とかち馬文化を支える会

目的

第3条この法人は、広く国民に対して、北海道十勝に根付く有形無形の馬文化に関する情報発信や馬が担う多面的機能の実証・普及に関する事業を行い、馬と人とのふれあいを通じた情操教育・福祉の普及・増進、馬文化の継承・振興、馬資源を活用したまちづくり・経済活動の活性化に寄与することを目的とする。(定款第3条)

NPO法人の「正会員」と「協賛会員」の違い

- | | |
|------|--|
| 正会員 | この法人の目的に賛同して入会した個人
総会は正会員をもって構成する
議決権を有する
正会員は受益者ではない |
| 協賛会員 | この法人の事業を賛助するために入会した個人もしくは団体または企業
議決権を有しない |

会員募集のご案内

- 当パンフレット入会申込書に必要事項をご記入の上FAX、郵送またはご持参ください。HP、ばんばショップからお手続きができます。
- 入会金 無 料
- 年会費 正会員 個人:3,000円以上 (4~3月) (1口1,000円 3口以上)
 協賛会員 企業・団体:1口1,000円(10口以上) 個人:1口1,000円(3口以上)
- 振込先 ●みずほ銀行 帯広支店 普通預金1042989
 特定非営利活動法人 とかち馬文化を支える会
 ●帯広信用金庫 中央支店 普通預金0139692
 特定非営利活動法人 とかち馬文化を支える会 理事長 三宅陽一
 ●ゆうちょ銀行 02790-4-96882
 特定非営利活動法人 とかち馬文化を支える会

事務局

〒080-0023

北海道帯広市西13条南9丁目 帯広競馬場1階

TEL:0155-67-6890 FAX:0155-67-6891

E-mail:info@umabunka.com



北の大地に育まれた「息づく馬文化」を継承する



特定非営利活動法人
とかち馬文化を支える会

私たちは、様々な事業を通じて
ばんえい競馬と
馬文化を支援しています。

本会は、07年の「ばんえい競馬廃止」の危機を乗り越えるために尽力した有志が集まって創設したNPO法人です。世界で唯一、牽引馬のチャンピオンたちが競う壮大でパワー溢れる「ばんえい競馬」。未開の大地を切り開いた馬たちの姿を今に伝えるこの素晴らしい競技が地上から消滅することに強い危機感を抱いた仲間が集まり、それが「とち馬文化を支える会」です。

しかし、本会の目的は「ばんえい応援」だけではありません。広く馬文化を啓蒙、継承、醸成するために、「馬文化祭り」や「馬耕技術伝承プロジェクト」などのイベントや馬学セミナーの開催など、様々な活動を行っています。また、小中学校への「馬の出前授業」の実施に加え、近年は盲学校や児童福祉施設での「馬とのふれあい体験」や「若手育成事業」など、馬を使った教育・福祉活動にも積極的に取り組んでいます。

本会には既に全国から多くの方々が会員として参加して下さっていますが、ばんえい競馬と馬文化の発展のためには、更に多くの皆様のご理解とご支援が必要です。是非、本会会員としてご登録の上、馬たちや、馬文化のための活動をご支援ください！

主な活動



馬の出前授業



若手育成事業



馬学セミナー



馬耕技術伝承プロジェクト



会員の皆様には

— 会 報 —

年に3回、当会の事業報告を中心記事とした会報をお送りいたします。様々な場面で活動する当会の事業をご報告すると共に、事業予定、当会直営店での商品の紹介などをお知らせいたします。

— 馬文化新聞 —

かつて、なくてはならないものとして人々の生活を支えた馬たち。しかし、その記憶は時間の経過と共に薄れつつあります。先人たちの貴重な記憶と文化を継承するために、本会では、それらを記録・保管する作業を行っていますが、資料のダイジェスト版を「馬文化新聞」として皆様に提供いたします。昭和40年頃を境として一気に消え去った「馬耕」「馬による運搬」から「軍馬」に至るまで、昔日の馬と人の暮らしをご紹介します。

